

# 第2回 NIIGATA ナスサミット inJoetsu

2022年7月23日(土)  
上越あるるん村特設会場

- 県内特産ナス販売 (あるるん畑)
- NIIGATA 各地特産ナス展示
- 市内小学校ナス栽培発表会
- 講演、NIIGATA ナスサミット  
(あるるんの杜+Zoom)

講演 山形大学農学部食料生命学科  
江頭宏昌教授

「全国から見た新潟在来ナスの多様性」

サミット議題

「NIIGATAのナスのファンを

もっと増やそう！」

※講演、サミットのZoomID

は、メールにてお問い合わせください。

kubotanouen@yahoo.co.jp

youtube live (視聴のみ)

はyoutubeの久保田農園チャンネル  
を検索!

もしくは下記QRコードから



会場

上越IC

主催：NIIGATA ナスサミット実行委員会

協賛・協力：えちご上越農業協同組合//新潟県//在来作物研究会//

ドコモショップ上越中央店//上越丸えんびつナス研究会//

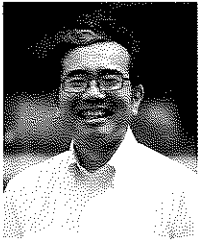
JAえちご上越越の丸ナス部会/JAむすい越の丸ナス部会

後援：北陸農政局//上越市/JA全農いしがた/JA新潟中央会

講演

# 2022 第2回ナスサミット in Joetsu

## 「全国から見た新潟在来ナスの多様性」



【講師】 江頭 宏昌 (Egashira Hiroaki)  
山形大学農学部教授

佐土原系、水茄子系、緑茄子系の3つを軸に全国のナスを紹介。  
そしてその全ての系統が実は新潟県にはある。  
その在来品種を今後新潟県としてどのように生かしていくのか、  
というヒントになる話。

1964年福岡県北九州市生まれ。1990年京都大学大学院農学研究科修了。同年に山形大学農学部助手。2001年より助教授、2015年より現職。博士(農学)。専門は植物遺伝資源学。

「野菜の在来品種は生きた文化財であり、その保存が急務である」という故・青葉高博士の考えに共鳴し、山形県内外の在来作物の研究や保存活動などに積極的に取り組んでいる。山形在来作物研究会会長。

山形在来作物研究会 HP : <http://zaisakuken.jp>

山形在来作物研究会は2010年に第1回辻静雄食文化賞をいただきました。

また同研究会は2015年には鶴岡市教育・文化功労部門で特別表彰されました。

2022年度(2023年3月末)をもって、山形在来作物研究会は閉会を予定しています。

江頭教授は新潟県の在来作物の調査研究にも大いにかかわっており、特に茶豆をはじめとしたエダマメ、カラトリ芋を含むサトイモ、食用ギク、ナスなど多くの新潟県の在来作物の調査研究をされています。

<主な著書など>

「どこかの畑の片すみで」(共著、山形大学出版会、2007)

「おしゃべりな畑」(共著、山形大学出版会、2010)

「焼畑の環境学」(共著、思文閣、2011)

「火と食」(共著、ドメス出版、2012)

「人間と作物」(編著、ドメス出版、2016)

「やめる選択・復活する選択」(社会学研究 102号 : 35-63, 2018)

「世界の食文化百科事典」(共著、丸善出版、2021)

「食の現代社会論」(共著、農文協、2022、出版予定)

# 2022 第2回ナスサミット in Joetsu

## 生産者による サミット

## 「NIIGATAのナスのファンをもっと増やそう！」

江頭教授の講演を参考に、県内各産地のナス農家や関係団体の皆さん、そして消費者と、実は作付面積日本一の新潟県のナスのファンをもっと増やすための今現在の取り組みや、どんなことをしたらいいのかを熱く語ります。

Zoomでのご参加、YoutubeLiveでのご視聴も絶賛募集中！

ご質問・お問い合わせは <kubotanouen@yahoo.co.jp> まで

